持続可能な開発と国際機構
Sustainable Development and International Institution

講演者：碓氷　尊（慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）
日　時：January 19, 1996 (13:30 - 16:00)
場　所：Seabury Chapel

世界180余国の共生のしくみとしてのマルティラテラリズム(multilateralism)はパワーの集中ではなくむしろその「拡散」を，そして資源配分の効率性よりはむしろ「公平性」を追求するものであり，その政治的なプロセスには①合意される原則・規範・ルールの普遍性，②合議の対象となる問題群の不分割性，③合意基盤としての互恵関係の拡散性（diffuse reciprocity)というトリロジーが支配する。そういうテーマを敷衍するかたちで以下のような設問に沿って議論した。

I.　Agenda21の「持続可能な開発」は1970年代以来の「新国際経済秩序」イデオロギーに代わる新しい国際開発パラダイムを意味するか。たといそうだとしても，冷戦終結後急速に吹き出した新しい「中心―周辺」の構図の中で早くも難破しつつあるのか。

II.　ウルグアイ・ラウンドもさることながら環境・難民・セキュリティの領域でもグロ ーバルに重要な議題はますます複雑化してきている。国際交渉の基本戦略としてモーリス・ストロングのいわゆる"PROCESS IS A POLICY"とか，国際関係のレジーム論でいうTHE SLIPPERY HILL STRATEGYはどのような経験に裏打ちされているか。

III.　「レジーム」と「機構」とはどう違うか。国連システムは数多の機能的レジームの集合であるが，「組織改革」の議論は「レジーム変化」のマネジメントという視点からハース＝コヘインらの「３つのc's―Concern, Contract, Capacity」にもっと均整のとれた注意をはらうべきではないか。

IV.　マルティラテラリズムにおけるリーダシップとは？日本の貢献の基本姿勢は？

（講演は日本語で行われました。）